



With Kids

海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会

●● Newsletter 14号 2015年 6月 25日 ●●

日本は梅雨の合間に見える青空が眩しく、また新緑がひととき濃く感じられる季節になりました。皆様の国では空の色、葉の色はどんな色に映っていますか？日本とは違って見えるのではないのでしょうか。日本とは違う言語、文化、習慣、そして水や空気に食べ物。海外に住む日本人家族の皆様が、このような違いを楽しみながら生活されますようにと願い、10年目を迎えた With Kids は今後も様々な活動を展開していきたいと思っております。(K.E)

With Kids に望むこと

—海外で暮らす家族とともに— Group With 諏訪 美草

With Kids の真摯で精力的な活動は、「海外に暮らす子どもとそのご家族の心のケア」をサポートする同じ仲間として敬服しました頼りにしております。

アメリカ、フランス、ジャカルタ、バンコクなどでは、海外赴任家族として現地に暮らす臨床心理士等のキャリアを持つ方々が中心となり、邦人のメンタルヘルスケアや子どもの成長・子育てに関する問題をサポートするボランティアグループを立ち上げ活動しています。しかし責任者の帰国や資格保有者の確保の難しさもありその運営はなかなか難しいのが現実です。

With Kids はそのような方々が帰国後も継続して海外へのサポートを志し立ち上げたグループです。海外各地の邦人家族の為に日本から無料相談を受けるなど地道な活動を重ねられています。一方で、こうした活動の多くはメンバー個人のネットワークに頼ることが多いのが現状であり、企業、海外日本人学校、民間ボランティアグループ、国内

の各自治体、学校などが情報を共有し繋がるような仕組みができればと願うばかりです。With Kids の活動が広く認知され、その険しい道を切り開いてくださることを強く期待しております。

私達 Group With は、海外での生活を体験した母親4名の非営利自主活動グループで、子どもや家族が精神面でのトラブルを抱えた時、時期を逸することなく専門家の援助が受けられることを願い、「海外および国内のこころの相談機関リスト」（日本語版・英語版）「心身の発達に障がいがあるお子さんの海外日本人学校での受け入れ一覧」等をホームページで公開しています。<http://www.groupwith.info/>

With Kids と連携しながら私たちが信頼できるネットワークを広げていき、心の悩みを持つ海外邦人の方々に素早く情報が伝わるようこれからも活動していきたいと思っています。

研修会報告「海外における安全対策とハーグ条約の概要と実際」

外務省から邦人援護官の糸井 清氏と、ハーグ条約室の田口 圭子氏を講師としてお迎えし、今年度 第3回目の研修会を開きました。With Kids のメンバーのほか、スクールカウンセラーや産婦人科の先生も参加され、このテーマへの関心の高さがうかがえました。

糸井氏からは、海外での危機管理について、大使館や総領事館がどんな役目を果たすのか、盗難から殺人事件まで困りごとが発生した時にどこに相談して、どんな流れで対応が行われるのか、具体的な話を伺いました。海外にいる方には、もう常識の領域かもしれませんが、海外安全ホームページ (<http://www.anzen.mofa.go.jp/>) や3か月以内の渡航でも現地情報がメール等で受け取れる「たびレジ」を紹介いただき、今後ぜひ活用したいと思いました。

もうひとかたの田口氏からは、昨年日本でも締結されたハーグ条約によって、国際結婚で紛争状態にある夫婦の子どもが、今後最良の環境で育っていくために、法や心理など専門家によるチームが複合的な支援を行っていることをお話いただきました。なかでも強制執行（一方の親が居住国外に連れ去った子どもを強制的に連れ戻す）や、そ

の前段の間接強制（子の返還を拒否した親に対して罰金の支払いを命じる）の流れ、ハーグが絡む問題には法テラス（法による紛争の解決に必要な情報やサービスの提供をしている法人）の扶助システムが活用できることなど、架空事例で知ることができました。

(<http://www.anzen.mofa.go.jp/konoshinken/index.html>)

私たち With Kids がメール相談や現地訪問相談を行うにあたり、海外で暮らすこと背景にあるリスクなどを知る事ができ、「実際に役に立つ知識を得た」と実感する研修会となりました。お二人の説明は、シロウトである私たちにもわかりやすく、難しいことを平易にお話し下さる姿勢に「プロ」を感じました。硬い研修内容でしたが、実際のお二人はともに気さくでチャーミングなお人柄。

短い時間に必要最小限のお話をさせていただきましたが、「もったいない、もっとたくさんの方に聞いてほしい」と思える研修でした。(NY)



「海外子女教育」インタビュー記事 ほか

義務教育期間にあたるお子さまを帯同して海外に暮らしている方々は、ほとんどの皆様をご存知の「海外子女教育振興財団 (JOES)」。

出発前後の教育相談、教科書配布、通信教育などなど、目に見えるところ、見えない所でも大変お世話になっている財団です。

こちらの財団が毎月発行している「海外子女教育」を購読されている方も多いかと思います。今年になって、私達 With Kids が2回のインタビューを受けました。1回目は3月号で「海外帰国子女教育を支援するボランティア」(P.12,13)、2回目は5月号で「親たちのストレス対処

(P.20-24)です。短いインタビューの中で私たちの活動や、考え方などのすべてを話すことは難しかったのですが、一端をお伝えできたのではないかと思います。お時間と興味のある方は、ぜひ一読を！

そして、財団が開催する「2015年度 帰国生のための 学校説明会・相談会 ー東京ー (7/31)」に今年も With Kids が参加いたします。詳しくは以下のサイトをご参照ください。(SA)

http://www.joes.or.jp/kokunai_setsumeikai/index.html

2015年度 海外訪問予定

- ・7月8～13日 (実質活動3日間)：ドイツ デュッセルドルフ (3名参加) 昨年に引き続き2回目の訪問。
- ・11月1～4日 (実質活動2日間)：台湾 台北・高雄・台中 (3名参加) 2年ぶり5回目の訪問。
- ・1月28～31日 (実質活動2日間)：中国 シンセン (3名参加予定) 2013年から3年連続の訪問。

海外訪問活動は、現地との太いパイプがあって初めて実現可能となります。上記3か所は、いずれも With Kids のメンバーが滞在していた時に、日本人学校や在留日本人との間に培ってきた関係を基に、連絡を取り合いながらキメ細かく計画し、実践に至ります。また、最近では、渡航費、滞在費、現地移動費用などの一部を負担して下さるところも多く、参加するメンバーの個人負担が軽減されてきまし

た。実質活動時間は限られており、その短い間に、できるだけ多くの個別相談を受けるよう、また、多くの方々向けに講演会やワークショップ、先生方への研修会を計画します。と言うことで、ほとんど観光の時間はなく、車窓から見る街の風景や、移動中に会える現地の方々の暮らしぶりに触れるくらいです。国内の仕事とは違った緊張感で取り組んでいます。(SA)

海外での子育て

アメリカ ボルティモア

今年2月に米国で(第一子) 女児を出産しましたが、日米の育児事情の違いに戸惑うことが多くあります。例えば、米国の赤ちゃんは産後すぐには沐浴させません。米国では切ったへその緒を日本のように結ばないから等いくつか理由はあります。郷に入っては郷に従えで「最低1ヶ月は沐浴させない」と言う私に、強く抵抗したのは日本から手伝いに来ていた母でした。生後すぐから毎日の沐浴が当たり前と信じる母にとっては衝撃的な異文化体験だったようです。そんな母に根負けして、うちの娘は生後2週目から沐浴を始めました。初めての育児を異国の地で行うというのは、日米の育児事情の違いに折り合いをつけていく煩わしさもあり、なかなか大変です。(SH)



メンバー紹介

樫尾 誠美 (かしお ともみ)： 母子関係への一助が少しでもできればとの思いから、臨床心理士となりました。海外は、高校の頃に約1年、アメリカのジョージア州へ留学をした経験があります。これまで、新生児集中治療室、大学の学生相談室、精神科等にて、臨床経験を積んでまいりました。出産を機に退職し、現在は、よく言えばしっかり者の、自我の強い、3歳の娘の育児に奮闘する日々を送っています。

無料のご相談メールは、ホームページにアクセスし、相談フォームにご記入の上、送信してください。

- 匿名での相談が可能です
- 1つのご相談につき3往復までお受けします
- ご相談前に必ず、相談規約をご確認ください



●With Kids のHPは (財) KDDI の助成金で作成しました●

ホームページアドレス：<http://www.withkids-kaigai.com/>

メール相談アドレス：soudan@withkids-kaigai.com

発行元／文責

With Kids -海外に住む子どもたちの心の健康をサポートする臨床心理士の会 -

代表： 澤谷厚子

事務局：〒227-0061 横浜市青葉区桜台16-39

連絡先：soudan@withkids-kaigai.com

発行年月日：2015年6月25日

